

GSway

ともに歩み、ともに進む

17
Mar. 2023

02 | 特集

INNOVATION & CHALLENGE



- 08 | お客様とともに歩む
- 10 | 支店へようこそ！（宇都宮支店）
- 11 | グローブシップ ナウ！
- 12 | 春風亭昇吉の耳寄ばなし与太ばなし

戦略FMパートナー
 **GLOBESHIP**

Case.1

設備女子の挑戦

グローブシップでは、事業を取り巻く環境を踏まえ、2030年を着地点とした「GS VISION 2030」を新たに目指す姿として策定。その成長戦略として「INNOVATION&CHALLENGE (革新と挑戦)」を打ち出しています。今回は、そんな当社の取り組みの一部をご紹介します。まずは、男女の別なく社員が活躍できる雇用環境の整備を推進する中、従来、男性が圧倒的多数を占めていた設備員に、当社では女性を登用するようになりました。その現場の様子や業務のやりがいなどをレポートします。

適性や将来性を感じて ビル管理業界に就業

丸の内3-2計画として2018年10月に竣工した丸の内二重橋ビルディングは、地上30階・地下4階の高層複合ビルです。グローブシップは同ビルの設備管理を受託し、全15名のスタッフがローテーションを組んで保守・点検にあたっています。

その1人である八島仁美設備員は大学の文学部を卒業し、2018年に新卒で入社。設備研修を受けたこのビルに設備員として正式に配属されました。「几帳面な性格



丸の内二重橋ビル 設備員 八島 仁美

がビル管理に向いているのではないかと思います、この業界を志しました。研修制度がよく整備され、未経験者や女性でも働きやすそうだなと思ったのが、グローブシップを選んだ理由です」と話します。

もう1人の女性社員である斎藤瞳設備員は、アパレル業界の販売職を経て、2020年に中途入社。「これからは女性の活躍機会がどんどん広がると聞き、ビル管理業界に興味を抱きました。私は入社とほぼ同時にこのビルに配属され、先輩方の指導によるOJTで仕事を覚えました」と振り返ります。

多様な業務は大きな やりがいに満ちている

ビル全体の日常点検や、主要な設備の状態を確認する月例点検、全館を閉館して行う停電年次点検など、設備員の業務は多岐にわたりますが、宿直勤務がないことを除けば、女性と男性の仕事内容に大きな違いはありません。

「当初は新人であり女性であることに心細さを感じることもありましたが、どの先輩も接しやすく、

仕事を丁寧に教えてくれたので、すぐに職場の雰囲気に溶け込むことができました」(八島設備員)

「例えば、マンホールの蓋を持ち上げるといった力仕事もありますが、男性社員が自然に協力してくれるので、どんな業務も不安な



丸の内二重橋ビル 設備員 斎藤 瞳

くこなせています」(斎藤設備員)

空調の熱量計などの検針業務も行う八島設備員は、無人になるはずのテナントのエアコン使用量が夜間も減らないことを発見。店舗に消し忘れを指摘して使用量が抑えられるようになった

たこともあり、そのように持ち前の観察眼を活かせるとき、この仕事に大きな喜びを感じるといいます。一方の斎藤設備員は、数カ月前から全員で入念に準備や訓練をし、無事故で停電年次点検を完了させたとき、何物にも代え難い達成感を味わえると語り、2人ともそれぞれに設備員としての誇りややりがいを抱いていることがうかがえます。



女性が働きやすい 職場づくりにも貢献したい

八島設備員も斎藤設備員も専門知識の習得に余念がなく、第二種電気工事士や危険物取扱者乙種4類をはじめとするさまざまな資格や認定試験に合格してきました。勉強している間は大変さを感じることもあるそうですが、資格がなければできない業務もあり、モチベーションアップの原動力にもな

っているのだと語ります。

そんな2人がともに望むのは、「ビルメンテナンス業界で女性が活躍するのが当たり前」という社会が実現されることです。「そのためには、男性も女性も働きやすい職場であることが絶対条件なので、これからはどうすればその環境づくりができるかについても真剣に考えていきたいと思っています

す」と斎藤設備員。「楽しく働ける職場づくりに何よりも大切なのは人間関係なので、私も今後はより円滑なコミュニケーションを図れるように努めていくつもりです」と八島設備員も語り、引き続き自己研鑽に励むとともに、「女性がより生き生きと仕事に打ち込める職場づくりに貢献したい」と抱負を述べました。

細やかな視点で業務を遂行してくれています

丸の内二重橋ビル 所長
杉田 義晃

女子トイレのように男性が立ち入るのが困難な設備でトラブルが発生した際などに対応しやすくする狙いもあって、このビルでは開業当初から複数名の女性設備員を配置しています。

その特質は視点が細やかなところにあり、八島設備員は他の人なら見過ごすような異状を検針データからしっかり読み取ってくれますし、斎藤設備員はビル管理に必要な消耗品の購入時に、型番を照合するなど的確なものをきちんと選んでくれます。テナントのお客様から設備に関するご要望をいただく際、男性よりもソフトな対応ができるのも、女性社員ならではの強みかもしれません。

この業界には女性管理職がまだまだ少ないので、2人には将来、ぜひ責任ある立場に就けるように成長してほしいと思っています。



Case.2

日本語教師の資格を取得し 技能実習生をサポート

グローブシップでは、ミャンマーから受け入れた外国人技能実習生が活躍しています。実習生たちに日本でより充実した生活を送ってもらうための支援策の1つに、社内で定期的に行われる日本語研修があります。どのような研修を行い、会社は実習生たちにどのような経験をしてもらいたいのか、教育研修部の佐藤正子講師が思いを語ります。

日本での生活を より円滑にしてもらいたい

グローブシップは、ビルクリーニング技術の移転を通じて開発途上国の経済発展に貢献するため外国人技能実習制度を導入。2018年1月より、ミャンマー人の技能



教育研修部 教育研修課 佐藤 正子

実習生を受け入れるようになりました。現在、総勢約50名の実習生が契約社員としてビルの清掃業務に就いています。

実習生たちは来日前に日本語を学んではいますが、そのレベルは初歩的なものに留まっています。日本で円滑な生活を送ってもらうため、グローブシップは全技能実

習生を対象に日本語研修を実施。その研修を、教育研修部教育研修課で新入社員向けのビジネスマナー研修を担当する佐藤正子講師が行っています。

「実習生の受け入れを始めてから、より高度な日本語を身につけてもらう機会を提供するべきではないかとの声が社内に挙がり、私自身も『母国を離れて働く彼女たちの力になりたい』と強く思うようになりました」と、佐藤講師は研修を受け持つようになった経緯を説明します。

指導能力を高めるために 日本語教師資格を取得

ビジネスマナーを教えることには慣れていても、日本語を教えた経験のない佐藤講師は、当初自己流で日本語研修に臨んでいました。

「せっかく教えるのなら、私もきちんとしたノウハウを身につけるべきと思い、約1年間学校

に通って日本語教師の資格を取得しました。外国人の視点に立って日本語を捉え直したおかげで、実習生たちが日本語を習得することの大変さを実感し、以前にも増して分かりやすい授業を心がけるようになりました」

学校に通っていた間は予習・復習に追われたものの、学ぶことの楽しさを改めて感じる事ができたといいます。

「業務人事部には、技能実習生をあらゆる側面でケアするミャンマー人社員のダーメン・スンさんがいます。そのスンさんと密に連携し、私が研修の前後にちょっとした相談に乗ったりすることでも、実習生たちの会社に対する信頼感が増しているのではないかと思います



ます」と、佐藤講師はこの研修の意義を語ります。

身につけてほしいのは 実践的なコミュニケーション力

実習生が日本で働ける期間は最長5年で、高い業務水準を持つ人に与えられる「特定技能」の在留資格を取得すれば、在留期間を延長できます。日本語研修は研修生がその「特定技能」に移行するまでの間、1～2ヵ月に1回程度のペースで開かれます。

「コロナ禍でオンラインにした時期もありますが、現在は対面で行っており、名古屋支店に勤務する4名の実習生に研修を行う際は私が本社から出張します。実際に対面しての研修のほうが実習生の反応が身近にわかるので、手間を惜しみたくありません」

段階的にレベルアップするカリキュラムは、佐藤講師自身が用意したものです。

「当初は実習生たちがミャンマーで勉強したときに使っていたテキストを用いましたが、文法中心で実用的ではなかったので、日本語による実践的なコミュニケーションを学べるテキストに変更しました。単にテキストの内容をなぞるだけではなく、日本文化も広く吸収できるよう、自ら作成したオリジナルの資料なども提示しながら、興味深く学べるよう配慮しているつもりです」と佐藤講師。

1回2時間半の研修の休憩時間になると、実習生たちは母国語での雑談に花を咲かせるそうです。

「研修が終わるまでは日本語しか使ってはいけませんが、彼女たちが和気あいあいとおしゃべりしているのを見ると、つい私も嬉しくなってしまう」



日本語能力試験の 受験も支援

日本語を母語としない人の日本語能力を証明する手段に、公益財団法人日本国際教育支援協会と独立行政法人国際交流基金が主催する「日本語能力試験」があります。最も易しい「N5」から最も難しい「N1」まで5段階ある認定を受けると、日本で働いたり生活したりする上でさまざまなメリットがあると考えられることから、グローブシップは受験を推奨。日本語研修ではそのための対策も手ほどきしています。

「前回の試験では、『日常的な場面で使われる日本語の理解に加え、より幅広い場面で使われる日本語

をある程度理解することができる』とされるN2に合格した実習生もいました」

グローブシップは実習生に良好な生活環境を提供していますが、昨今の円安は母国への送金額を目減りさせ、物価高は自身の生活費を圧迫しています。

「私にできることは限られていますが、1人でも多くの実習生に『日本にきて良かった』と思ってもらい、在留資格が『特定技能』に移行してからもグローブシップで働き続けてもらえるよう、これからも日本語研修をとおして精一杯サポートしていくつもりです」と佐藤講師は明るく、さわやかに語ります。



Case.3

IFMサービスの 深化・広がりをけん引する

グローブシップは、仏ソデクソ社との合併会社、グローブシップ・ソデクソ・コーポレートサービス株式会社（以下、GSS）を2016年3月に設立。国内の外資系企業やグローバル日系企業向け、IFM（インテグレートド・ファシリティ・マネジメント）サービスを提供してきました。これまでの取り組みを振り返るとともに、事業の今後の方向性について語ります。

間接業務を外部に委託して 本業に注力する動きが顕著

欧米の大企業を中心に、建物の管理にとどまらず総務や人事系など幅広い間接業務も一括して委託する「IFM」の概念がかなり浸透しています。その狙いは、ヒューマンリソースを本業に集中させることで業務生産性を高めることと同時に、間接コストの集中管理によるコストの有効活用を目指すことにあります。GSSは設立以来、グローブシップとソデクソ社に蓄積されているノウハウを柔軟に活用しながら、多くのグローバル企業にサービスを提供してきました。

「業績は堅調に伸ばしていますが、経営を取り巻く環境には大きな変化が見られます。その一つが昨今の円安で、アジア各地の工場を日本に移転するお客様が増加。また、恒常的な求人難を受け、本業以外をなるべく外注しようとする動きが活性化していることでも、当社に対する期待が高まっています」とCEOの服部幸一は話します。

「以前は業務を効率化するためのオフィス環境の整備が第一義でしたが、コロナ禍となってからは

感染防止対策も重要な項目に加わりました。状況が落ち着き始めてからは、リモートワークが主体となった社員を会社に呼び戻すために、オフィスの快適性や機能性をいっそう高めようとする動きも見られます」と語るのは、COOを務める河野圭太です。

こうした外部要因の変化により、GSSが求められるサービスもさらに多様化。例えば社宅や社用車等の契約から運用管理までを委託される事例が増えるなど、総務系業務の代行ニーズも大きく拡大しているといいます。

多様化の一途をたどる 顧客ニーズに柔軟に対応

人件費の高騰や円高などを背景に、かつて日本の製造業はこぞって製造拠点を海外に移しました。その結果、工場の新規開設後の運用ノウハウを有する国内人材が不足していることも、GSSへのアウトソーシングの依頼が増加する要因となっているようです。

アメリカの大手化粧品メーカーが2021年に茨城県に建設したアジア初となる工場は、その一例

といえるでしょう。GSSは設備管理や清掃、警備などを受託。

「併せて、受付や購買、クリーンルーム仕様のユニフォームのランドリーから、製造用のアルゴン・窒素ガスの販売まで、多岐に渡る業務を一括してお引き受けしています」（服部CEO）

そうした案件が増えているのに加え、お客様が要望するサービスのバリエーションが広がっているのも最近の傾向です。

「アメリカの大手金融企業の委託案件では、社員の皆さんが自社フロアから出ることなく食事をとれるよう24時間体制でフードサービスを提供するほか、レセプション業務の代行もしています」（河



グローブシップ・ソデクソ・コーポレートサービス株式会社 CEO 服部 幸一

IFMサービス概要

フードサービス	エンジニアリングサービス	植栽・環境管理サービス	ビジネスサポートサービス	セキュリティサービス	クリーニングサービス	専門的サービス
<ul style="list-style-type: none"> 社員食堂運営 役員・来客向け食堂運営 ケータリングサービス 自動販売機設置・運営 ホスピタリティサービス イベントアレンジ 	<ul style="list-style-type: none"> 常用・非常用発電機管理 照明機器管理 エレベーター・エスカレーター管理 UPS管理 弱電設備管理 受変電設備管理 空調機管理 建物設備管理 給排水設備管理 塗装・防水工事 GxPエリアにおける設備管理 	<ul style="list-style-type: none"> 植栽管理 外構設備管理 外周清掃 グラウンドメンテナンス(テニスコート・野球場等を含む) 歩道整備 除雪業務 廃棄物管理 廃棄物リサイクル業務 害虫駆除業務 観葉植物管理 	<ul style="list-style-type: none"> 代表電話対応 受付業務 ミーティングルーム管理 配送物出荷・荷受 メールサービス トレーニングルーム管理・運営 ユニフォーム管理 ランドリー業務 送迎バス運行管理 社有車管理 倉庫管理 プロジェクトマネジメント プロジェクト計画 図面作成 工事施工 工事管理 レイアウト計画 引越し管理 	<ul style="list-style-type: none"> 常駐警備 遠隔監視業務(防犯・防災・設備異常) 防災管理業務 防犯システム施工・監視業務 監視カメラ施工・監視業務 来客者管理 緊急時対応 セキュリティカード・鍵管理 来客対応 駐車場管理 	<ul style="list-style-type: none"> 日常清掃 床面洗浄業務(カーペット・木床・塩ビ等) 窓ガラス清掃 衛生消耗品販売・管理 マット交換 床面軽修 タクト・厨房清掃 GxPエリア清掃 機密文書溶解処理 	<ul style="list-style-type: none"> R&D施設清掃 オートクレーブ 消耗品補充 水質・空気環境検査・管理 廃棄物管理 化学薬品管理 有毒物質・化学薬品廃棄物管理 データベース作成補助 資産管理サポート 設備機器保全管理 設備機器設置 設備機器校正 生産ユーティリティ フォークリフトメンテナンス データセンターサービス



野COO)

フードサービスでは、環境対応の一環として使い捨てのプラスチック製スプーンやストローなどを環境負荷の少ない代替品にする「廃プラ」を実施。レセプションにおいては受付だけではなく、世界に点在する会議室の手配依頼に応えるなど、ヘルプデスク関連業務をワンストップで行うことでお客様の便宜を図っています。

不変の使命はオフィスの 快適性を高めること

GSSの強みは、競合他社が業務を他社に再委託するケースが多

いのに対し、大半のサービスを自社の社員が提供することで、質の高い業務を担保できる点にあります。

「それだけに、人材の採用と教育が大きな課題となります。顧客ニーズの多様化や深化は日本だけに見られる傾向ではないので、グローバルに対応しているソデクソ社の経験や知見を活かすべく、今後は当社との人材交流も活性化させたいと思います」（河野COO）

今後の事業展開の方向性について、「日本における労働力不足、省エネ及びエネルギー転換、そして環境保全意識はますます強まり、それとともにワークプレイスサービスにおける省力化・省エネ化・環境改善+ウェルビーイング意識もますます高まるはずなので、そうした要望に対する提案力を磨

くことも重要です」と服部CEO。

その上で、GSSの使命はお客様のオフィスの快適性を高めることとし、「それは主観的なものではなく今後、出来るだけ客観的に測られ評価されていくことが予想されます。その数値目標を確実に満たすべく、ハイクオリティなサービスの提供に必要な技術と人材スキルのレベルアップに、引き続き力を注いでまいります」と力強く展望を語ります。



グローブシップ・ソデクソ・コーポレートサービス株式会社 COO 河野 圭太

サッカー場内に建つ宿泊施設&アカデミー寮

J-GREEN 堺 DREAM CAMP (大阪府)

プレイヤーズファーストの実現



大阪府堺市の臨海地域に立地する日本最大級規模を誇るスポーツ施設「J-GREEN堺」。その施設内の宿泊施設である「DREAM CAMP」を所有する一般社団法人大阪府サッカー協会常務理事の大槻良太様にお話をうかがいました。また、2022年4月より新たに業務を受託し、施設を運営管理するグローブシップ所属の支配人(施設責任者)・岡村幸司が業務について説明します。

日本最大級のスポーツ施設

大阪府堺市の臨海地域にある「堺市立サッカー・ナショナルトレーニングセンター(通称: J-GREEN堺)」は、日本最大級の規模を誇るスポーツ施設。サッカーをはじめとする様々なスポーツのアスリート育成拠点として、16面のサッカーフィールドと8面のフットサルフィールド、クラブハウスなどを保有しています。

2010年の開業後まもなく、想定を上回る利用者を記録。合宿や遠方から訪れるアスリートの利用も多く、「敷地内に宿泊施設があれば、トレーニングに集中できる」

という声を受けて、2012年4月に、宿泊施設「DREAM CAMP(ドリーム・キャンプ)」が開設されました。

J-GREEN堺は未就学児からシニア世代まで幅広い年代層に利用され、年間利用者数は約80万人にのぼります。

「関西空港に近いという立地から、国内だけでなく、海外のクラブチームも来場され、プロ・アマチュアを問わず、様々なアスリートの方にご利用いただいています。コロナ禍により一時期、利用者数は減少していましたが、現在は回復しつつあります」(大阪府サッカー協会常務理事 大槻良太様)。

宿泊施設にアカデミー寮を併設

メインフィールドに隣接するDREAM CAMPの総客室数は62室(最大収容数306名)。レストランや会議室、ロッカー室、浴場などを設置しています。

レストラン「Off the Pitch」は約150人を収容。ピュッフェ形式をとり、アスリートたちが適切な栄養補給や体調管理ができる多彩なメニューを用意。1泊につき、朝夕2食が基本ですが、要望に応じて、昼食またはお弁当も提供しています。

DREAM CAMPの大きな特徴は、「JFAアカデミー堺」の寮を併設していることです。

国内に4カ所あるJFAアカデミーは、日本サッカー協会が実施する世界基準の選手育成をめざし人材育成プログラムを実行する機関です。そのうちの1校であるJFAアカデミー堺には、現在、35名の女子中学生が入寮。平日は堺市内の中学校に通いながら、アカデミーでの活動を行い、週末や長期休暇時は帰省して地元のクラブチームでの活動を行う「週末帰省型」を採用しています。

「JFAアカデミー堺の卒校生

のなかには、なでしこジャパンのメンバーとして活躍している選手もいます」(大槻様)

寮施設は、一般の宿泊者ゾーンとは完全に分離。アカデミーダイニングでは、管理栄養士の指導のもと、年代に応じた

アスリートに必要な栄養素や摂取カロリーを考慮した食事を提供しています。

さらなるサービス向上に向けて

J-GREEN堺の中にあるという特性上、DREAM CAMPはリピーターの利用比率が高いことなどから、利用者のニーズに対応したサービス提供やおもてなし(ホスピタリティ)の向上は不可欠です。

「常にお客様の声に耳を傾けながら、お客様のニーズを把握し、ハード・ソフト両面で満足度向上を図ると共に、アスリートの皆様に加えて、企業や地域の方などが活用できる施設にしていきたいと考えています」と支配人の岡村幸司は語ります。

レストランでは、利用者の食に対する嗜好や意識の変化、食物アレルギー対応の増加などを踏まえ、



大阪支店 業務三課長 長栄洋一(左)、一般社団法人大阪府サッカー協会常務理事 大槻良太様(中央)、J-GREEN堺 DREAM CAMP支配人 岡村幸司(右)

「お客様を飽きさせない」をキーワードに、安心・安全なメニュー作りも進めています。

また、開業から約10年が経過し、施設改修や設備更新を検討する時期を迎え、塩害の影響を受けた外壁の補修工事を計画するほか、空調・電気設備の更新も視野に入れた修繕の実施を考えています。

「グローブシップが多くの施設で培った施設管理の経験やノウハウにも期待しています。日々、緊密な連携体制をとることで、お客様が安心して快適に過ごせる空間を提供し、ここを訪れたお子さんが親の世代になり、また子どもを連れて来たいと思えるような施設をめざしたいです」(大槻様)

今後は、宿泊を伴う様々な付加価値の高いサービスも展開したいというDREAM CAMP。次世代を見据え、さらに多くの人に愛される施設づくりへと発展させていきます。

出張所概要

J-GREEN 堺 DREAM CAMP

■受託サービス: 宿泊施設運営、レストラン運営(LEOCに委託)、清掃業務(日東CSに委託)、設備管理ほか

■配置人数: 24名



左: レストランは室内150席、テラス席120席で宴会、パーティーにも対応。右: 客室はツインルーム(写真)ほか、シングルルーム、6人部屋、25人部屋がある

全国に広がるグローブシップグループのネットワークをご紹介します。

機動力と対応力を強みに
地場での信頼を積み上げていく



うちの自慢のスタッフです

■支店スタッフ 渡邊 友弘
新卒入社後、東京で設備管理に従事していたが、結婚を機に妻の実家がある栃木県に異動。要望をくみ取り、分かりやすい提案を行うことからお客さまの信頼が厚い。また、人あたりの良さと熟達したPCスキルにより、支店メンバーからも頼りにされる「愛されキャラ」。



グローブシップ(株)宇都宮支店は、現在パートを含めた160名のスタッフで、支店所在地である栃木県だけでなく、近隣の福島県、山形県を管轄エリアとしています。

宇都宮支店は地元企業の物件や全国規模の企業の県内拠点、事務センターの管理業務だけでなく、当社のグループ企業のGSS社(グローブシップ・ソデクソ・コーポレートサービス)と連携した外資系企業の工場の庶務業務や、TAG O&M社(タグ オーアンドエム)の太陽光発電所の管理業務も請け負っています。

阿部正明支店長は「宇都宮地域は新しいビルがなかなか建たないエリアですので、そのような市場環境の中でどうしたら仕事を広げていけるかを常に念頭に置いて、お客様から信頼される良きパートナーとなるべく支店全員で仕事を進めています」と語ります。

そんな宇都宮支店の強みは、小さな修繕であれば資材を調達して自分たちで工事し、臨時の清掃業務も支店スタッフで行う機動力です。最初に協力会社ありきではな

く、まず自分たちで行うことで各個人の技量を上げながら少しでも利益につなげていく風土が支店にはあります。また月1回の支店会議では業務報告だけでなく、仕事を通して知り合うさまざまな方のご縁を大事にしながらリレーションを構築してほしいと話しています。

「会社は全国区ですが管轄エリア内ではまだ知名度、認知度が低いと言わざるを得ません。お客さまからの要望に迅速かつ誠実に応えることを心がけ、新しい業務に積極的にチャレンジして信頼を得ながら実績を積み上げていきたい」と阿部支店長。スタッフは、その方針のもと、日々仕事に邁進しています。

支店情報

- グローブシップ株式会社 宇都宮支店
- 所在地：栃木県宇都宮市大通り2-1-5 明治安田生命宇都宮大通りビル3階
- 管理物件：60件
- 従業員：160名(パート含む)



宇都宮支店 支店長 阿部 正明

スタッフには、営業活動の中で人脈づくりをしてほしいと話しています。仕事は人を通して成り立っていくもの。いただいたご縁を大切にしながら、仕事につなげていきたいと思っています。

グローブシップナウ!

品質と安全への意識をさらに発揚させる
2022年度グローブシップ品質向上・安全衛生大会

10月27日に「2022年度グローブシップ品質向上・安全衛生大会」を開催。役員をはじめ部長、支店長、営業本部の課長以上、本社安全衛生委員及びグループ会社の代表など111名が参加しました(リモート参加含む)。「お客様へ安全な環境を提供することが当社の信用の基盤であり、安全品質の向上は重要な課題。この大会をきっかけに、毎日、安全に対する意識を再確認してほしい」と社長の矢口が開会の辞を述べました。

大会では労働災害が起きた後の対応を主なテーマに、作業スケジュールや作業内容・時間を周知



するほか、安全保護具の正しい着用を徹底するなど共有。副社長の伊藤が「現場ごとに異なるルールを統一することで混乱を防ぎ、災害防止に努めてもらいたい」とコメントしました。

また、「労働安全衛生標語」の表彰式も行われ、973点の作品の中から最優秀賞3作品、優秀賞3作品、佳作4作品が表彰されました。

訓練を通じて火事に備える

本社の芝フロントビルで消防訓練を実施

2022年12月9日、グローブシップ本社のある芝フロントビルで消防訓練を行いました。新型コロナウイルス感染症の拡大状況を鑑み、近年は集合形式での開催を控えていましたが、今回は感染対策を徹底し、3年振りにビル全体での訓練となりました。

芝消防署の全面協力を受け、指導員として消防署員4名を招いて行われた本訓練には、本社ビルより

約110名が参加しました。消防署員より過去の事例を交えた説明を受けながら、複数の班に分かれ、管理室での動きや実際の避難経路の確認、避難誘導、消火訓練や応急救護訓練などを経験。実際の火事に備えるために何が必要かを再確認しました。



カーボンニュートラルの実現

脱炭素への取り組み

グローブシップは、政府が推進するカーボンニュートラルの実現目標に賛同し、脱炭素社会を目指すために以下の取り組みを行っています。

清掃業務の適正化を図るべく、環境に配慮された洗剤などの利用を推奨するほか、業務の効率化・高品質化、省人化に欠かせないロボットやIT技術を導入することで、温室効果ガスの削減に貢献して

います。

また、本社ビルでは毎月の電力使用量・ごみ排出量をグラフ化して社員全員への通知や、ワークフローの電子化、電子契約システムの導入などを通じて、コピー用紙などの消費量削減に取り組んでいます。

一方で、空調機更新工事、照明LED化工事など、お客様のご要望に合わせた省エネルギーに資する工事の適切な提案と実施をすることで、お客様はもちろん、社会全体の脱炭素化を推進しています。

編集後記——来る4月、弊社では18名の新入社員を迎えます。入社後、新入社員は約1ヵ月半研修を経て、現場に配属されます。そこでは先輩たちが新入社員を温かく迎え入れ、指導をします。新入社員は社会人になって、緊張していると思いますが、「仕事を通じて、社会に貢献し、自分自身も成長してもらいたい」と思っています。私たちは新入社員の人生の幸

せを願い、自分の力を存分に発揮し成長し、結果として会社も発展してゆくことを切に願っています。スティーブ・ジョブズの言葉を全ての新入社員に贈りたいと思います。『今やっていることがどこかにつながると信じてください。その点がどこかにつながると信じていれば、他の人と違う道を歩いていても自信を持って歩き通せるからです。』 管理本部長 佐藤 武男

春風亭昇吉の 耳寄はなし与太ばなし

3

鈴々舎馬桜師匠に鍛えられた 「プロ」としての自覚

私が、師匠である昇太から直接教わった噺は3つしかない。他の落語家もそんなものだと思う。自分の師匠から噺を教わると、似過ぎてしまってよくないからだ。

そのかわり、自分の師匠以外の真打の師匠のところに着古に行けることになっている。師匠方全員で二つ目や前座を育てるシステムになっているのだ。好きな師匠に、好きな噺を教えてもらえる。しかも、タダで。どうしてかと言うと、その師匠も同じように上の師匠から噺を教わっているからだ。その文化が連綿と続いている。

慣れっこになっているので当たり前だと思っていたが、これはすごいことだと思う。ただで教わって、授業料を払うどころか、終わったあとご飯までご馳走になる。どの師匠も、親身になって、マンツーマンで丁寧な稽古をしてくださる。

私は稽古が好きなので、いろいろな師匠に着古にいったが、鈴々舎馬桜師匠の稽古は一風変わっていた。最初の稽古から、私はボロクソに言われた。

「今まで稽古をつけたやつの中で一番へたくそだ」

「調子に乗っているだろう」

ちょうどそのころ、脇の仕事と新作づくりで超多忙になっていた私は、どこかで稽古の手を抜いていたのかもしれない。自分では無我夢中で必死になってやっていたが、ありていに言うと、天狗になっていたのかもしれない。

「^{がま} ^{あぶら} 蝦蟇の油」という落語があって、通常は15分間ぐらいだ。しかし、昭和の名人たる三遊亭圓生の全集に出てくるバージョンは25分間ぐらいある。馬桜師匠はこの25分版で覚えてこいというのだ。私が、「師匠、申し訳ありません。今、ちょっと仕事を立て込んでまして、明日の稽古を延期させて頂けませんでしょうか？」

途端に馬桜師匠の目が吊り上がった

「バカ野郎、甘ったれたこと言いやがって。お前は、落語で飯を食っていくんだ。いい加減、腹を決める。腹を括れば、1日で覚えられる」

その日は、徹夜で覚えた。稽古は大変だったが、その日を境にプロとしての自覚が生まれた。あのまま仕事の多さにいい気になっていたなら、二つ目以降は惨憺たるものだったろう。

真打になった今でも、馬桜師匠には稽古をしてもらっている。



春風亭昇吉／落語家
1979年岡山県生まれ。史上初の東大出身落語家。在学中に全日本学生落語選手権・策伝大賞で優勝し、東大で初の総長大賞に輝く。2007年に春風亭昇太師匠に弟子入り。厳しい修業時代を経て、2021年に真打昇進。気象予報士やテレビ番組の司会等、広範に活動を展開している。

